2020(令和2)年度ＪＫＡ補助事業の概要

【事業の目的】

発症後間もない患者の家族は、疾患、治療、対処法に関する知識を得る機会や交流の機会がなく、自他共に精神疾患に対する社会的偏見があるため孤立を余儀なくされています。家族による家族学習会などピアサポートにより家族が孤立から救われると、患者への接し方も変化するため、患者自身の病状にもよい影響を与えることにつながります。

1. 家族学習会セミナー

「家族学習会」がどのようなものか知っていただくためのセミナーです。誰でも参加できます。2020年度は群馬、岐阜、リモートで開催しました。

今年度の開催予定はホームページでお知らせしています。

2. 担当者養成研修会

「家族学習会」は「家族による家族支援」のための系統立てられたグループワークプログラムです。家族学習会の意義や、開催のノウハウ、人の体験を聴く際の心構えなど、基本的なプログラムと理論を学びます。2020年度は、子どもの立場や配偶者の立場の方を対象にした担当者養成研修会など6か所で実施しました。また、コロナ禍により3か所がリモートでの開催となっています。

3. アドバイザー養成研修会

家族学習会がスムーズに開催できるように他の家族学習会の「担当者」を支援し、家族学習会や担当者養成研修会で講師を務めるなどの役割が担えるようになるための研修会です。

担当者経験があるなど参加資格のある人が対象です。今年度は、コロナ禍のためリモートで開催しました。また、仙台市でも独自に実施しています。

4. アドバイザーフォローアップ研修会

実際に訪問経験のあるアドバイザーを対象に、情報交換と経験の共有を行い、アドバイザーとしての力量を高めるための研修会を開催しました。今年度は、コロナ禍のためリモートでの開催になりました。

5. 企画委員会

実施開催場所の検討やプログラム内容の改善など家族学習会事業の企画を行っています。全国のアドバイザーや家族会の事務局員、学術研究者などで構成し、年4回開催していています。今年度は、7月13日、9月28日、12月22日、3月30日にリモートで開催しました。

２　予想される事業実施効果

家族会にもつながっていないような社会的孤立状態にある家族へのピアサポートプログラム「家族による家族学習会」を提供する体制が整備されつつあります。

今年度の実施実績は、家族学習会セミナー84名参加、担当者養成研修会69名参加、アドバ

イザー研修会17名参加、フォローアップ研修会31名参加となっています。コロナ禍の中で事業規模を縮小せざるを得ませんでした。

これらの研修会を受講した方たちを中心として、全国32か所で家族学習会が開催され、約166人が参加しました。

学習会の効果は、

① 精神科疾患と精神障害についての正しい知識を得て、ピアの家族同士で場面ごとの対応や工夫が共有できること
② 家族の持つ偏見が解消し、日常的な生活場面での視点に変化がうまれること
③ 疾患と障害をもつ当事者との関係性にゆとりができること
④ ①～③により、家族自身が自分の人生を生きることが楽になること
⑤ 家族が充実した人生を送ることが、ひいては当事者のリカバリーに繋がること

が挙げられます。

家族学習会に参加したことで、気持ちが楽になった、心が癒されたといった体験は、次に自分も癒す側にまわりたい、つらい思いをしている人の役に立ちたいという思いにつながっていきます。こうした思いを受け止めるべく、家族学習会は参加者→担当者→アドバイザーとステップアップしていく仕組みを備えており、精神障害者家族支援プログラムとして画期的なプログラムとなっています。

精神疾患・精神障害への偏見には根強いものがあります。この「病気・障害への偏見」が、本人や家族を苦しめ、回復を遅らせています。「家族が偏見から解放されていくと、本人との距離感が保たれ、よりよい関係性の再構築につながっていきます。それは、本人の回復の道筋としても大切なことです。単に知識を学ぶだけにとどまらず、人としての尊厳の回復をもめざしているプログラムとして普及させていきたいと考えています。

事業内容についての問い合わせ先

公益財団法人全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）事務局